

(5) 追肥

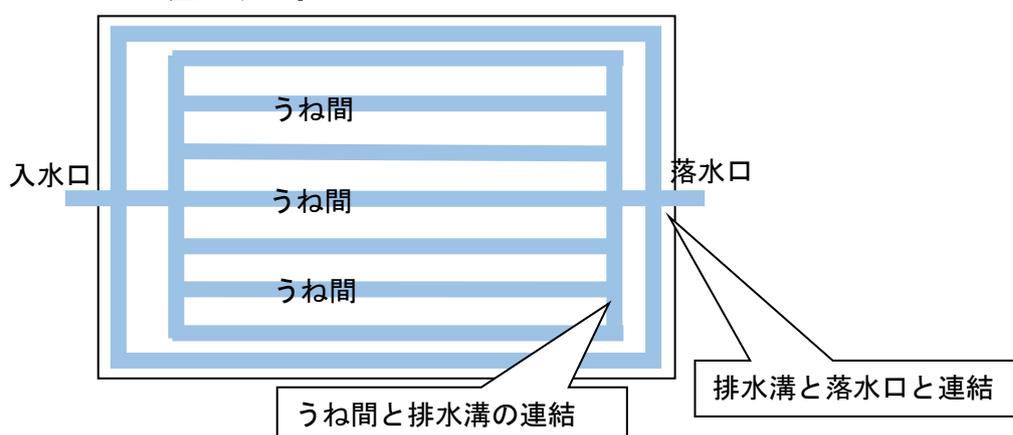
- ・ 1、2回目の追肥は、低温期であることから、硝酸態窒素を含む「硝加燐安 333」等を施用する。
- ・ 3、4回目の追肥は、カルシウム欠乏症の発生を防ぐため、「畑のカルシウム入り追肥」を施用する。
- ・ いづれの追肥も、条間への施用を基本とし、4回目で条間が葉で覆われている場合はうね肩に散布する。

◎追肥例

回数	目安の時期	肥料の種類	施用量 (kg/10a)
1回目	定植7日後	硝加燐安 333	30
2回目	定植20日後	硝加燐安 333	40
3回目	2回目の2～3週間後	畑のカルシウム入り追肥	60
4回目	4月中旬	畑のカルシウム入り追肥	60

(6) うね間・排水溝・落水口の連結手直し（12月上旬、2月下旬）

- ・ 冬期間は降雨・降雪が多く、雨水や雪解け水が速やかにほ場外に排出されるよう、必ず、12月上旬（積雪前）と2月下旬（融雪後）にはほ場を見回り、うね間と排水溝、落水口の連結を確認し、連結されていない場合は、直ちに手直しする。



(7) 除草剤散布 (2月下旬～3月)

- ・ キャベツの外葉が生育し、うね面を覆うまでの生育初期の除草を徹底する。
- ・ 2月下旬 (融雪後) ～3月に、ほ場を見回り、雑草の発生が見られる場合は、速やかにバスタ液剤等をうね間に散布するか、中耕除草機で除草する。
- ・ 雑草の生育が進むと、除草が難しくなるので、除草は遅れないよう注意する。

薬剤名	適用雑草	使用時期	薬量 希釈水量	使用回数 使用方法
バスタ液剤	一年生雑草	収穫45日前まで (雑草生育期定 植前又は畦間処 理)	300～500 ml/10a 100～150ℓ/10a	2回以内 雑草茎葉 散布

※キャベツに飛散しないよう、風の無い時間帯に散布する。

(8) カルシウム欠乏症対策

- ・ 生育盛期 (結球期) に土壌の乾燥が続くと、土壌中のカルシウムが根から吸収できず、カルシウム欠乏による縁腐れ症や心腐れ症が発生する。
- ・ 特に春どり作型は、5月～6月が乾燥しやすいことから、カルシウム欠乏症が発生しやすい。
- ・ 縁腐れ症等があるものを出荷すると、出荷先からのクレームや返品に至り、産地への信頼が著しく損なわれるため、絶対に発生させない。
- ・ カルシウム欠乏を防ぐため、乾燥が続くと予想される場合は、かん水を行うとともに、定期的に水溶性カルシウム剤 (カルプラス 500 倍液) を葉面散布する。



カルシウム欠乏

<乾燥時のうね間かん水の手順>

- ① 事前準備:速やかに入排水できるように、入水口、うね間、落水口の連結の手直しを行う。
- ② 実施時期:5日以上降雨が無いと予報され、日中、うねの溝が白くなり始めたとき。
- ③ 実施時間:気温が低くなる夕方に実施する。
- ④ かん水方法:入水口を開けて入水し、うね高の1/3程度、水が溜まり、ほ場全体に水が行き渡ったら、水口を閉め、速やかに落水口を開けて落水する。



入水口とうね間の連結が手直しされていない例

(9) 防除

- ・ 4月下旬から、アオムシやコナガの発生することから、プレバゾンフルアブル5やアクセルフロアブル、ディアナSC等で、10日おきに防除する。
- ・ キャベツは薬液が付着しにくいいため、散布液には、必ず、展着剤を加用する(加用量は、ボトルに記載されている使用基準を遵守する)。
- ・ 散布液の調製にあたっては、散布予定量の水に、溶けやすい順(展着剤>乳剤・フロアブル剤>水和剤)に薬剤を加用し、よくかき混ぜて、均一に希釈する(調製後はすぐに散布し、長時間、放置しない)。
- ・ 散布ノズルは、微細な霧状に散布できるものを用い(鉄砲噴口は薬液が十分に付着しないので使用しない)、株全体に薬液がしっかり付着するよう、十分な薬液量を均一に散布する。
- ・ 防除実施後はほ場を見回り、防除効果を確認する。

5 収穫

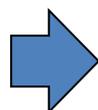
- ・ 春どりは球の肥大が早く、収穫遅れによって裂球しやすいことから、収穫遅れにならないよう注意する。
 - ・ 収穫は一斉収穫を基本とし、結球しているもので一定の大きさ以上のものを収穫する。
 - ・ 重労働を避けるため、運搬車の利用やトラクタの後ろにキャリアを付けるなどし、効率的な収穫作業を行う。
 - ・ 外葉等の調製は、実需者が決めた出荷規格に基づいて行う。
 - ・ 出荷ごとに、数球切って、内部に縁腐れ症や心腐れ症がないか確認する。
- ※ 試し切り場所・株：乾きやすい場所(落水口付近等)、収穫が遅れぎみの株等
- ※ 縁腐れ症や心腐れ症の発生が確認されたほ場は出荷しない。
- ・ 異物(土、雑草種子、ミミズ等)が混入しないよう、刈り取り時やコンテナ詰め時に確認する。

<効率的な収穫作業の例>



①刈り取り

1 うねに2名ずつ、向いあって刈り取る。
刈り取ったキャベツは裏返してうね上に置く。



②回収

3列ずつ、うね上のキャベツを拾い上げ、コンテナに詰める。
トラクターオペレーター1人、コンテナ詰め 1~2人、
拾い上げ 2~3人

作業効率の目安 : 16コンテナ/6時間(作業員数5~6人)

<効率的な刈り取り方法の例>



出荷物につけない外葉を剥く。



球の直下に包丁を入れる
(一発仕上げ)。



裏返してうね上に置く。

<効率の悪い刈り取り方法の例>



外葉を多くつけて、刈り取り。



ムダな作業 (外葉とり (左) や軸の切り直し (右)) が発生



排水対策のための野菜作付予定ほ場調査及び対策早見表 Ver.1.0

1 調査日 令和 年 月 日

2 調査経営体名

3 調査ほ場地番

4 作付予定品目

5 調査項目及び排水対策方法

(1) ほ場周辺の確認項目

①作付予定ほ場の湛水田と隣接状況	隣接していない	<input type="checkbox"/>	隣接している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 不耕起地帯を作る
②用水からの漏水状況	漏水はない	<input type="checkbox"/>	漏水している	<input type="checkbox"/>	
③道路からの雨水の流入の可能性	流入はない	<input type="checkbox"/>	流入の可能性あり	<input type="checkbox"/>	

(2) ほ場内の確認項目

調査項目 (□を調査、記入)	対策	施工方法 (選択)
①田面から落水口底面までの落差 <input type="text"/> cm 30cm以上あるか はい いいえ		
②田面から排水路の水面までの落差 <input type="text"/> cm 40cm以上あるか はい いいえ 畦畔を割って排水口を作れるか はい いいえ		
③礫層の田面からの出現位置 (検土杖等で確認) <input type="text"/> cm 0~40cmの間 40cm以下またはない	(畦畔を割って) 深い落水口施工 ↓ 徹底した地表排水 額縁明渠・高うね ↓ 額縁明渠 + 弾丸暗渠 (斜めがけ・礫層まで) ↓ 額縁明渠 + 弾丸暗渠 (斜めがけ) ↓ 額縁明渠 + (集水升) + 弾丸暗渠 (斜め+放射状)	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E <input type="checkbox"/>
④本暗渠の敷設 (あり、なし) <input type="text"/> あり なし		

排水対策施工方法

施工方法	平面図	側面図
A	<p>畦畔を割って 深い落水口を施工</p>	<p>畦畔を割って 深い落水口を施工</p>
B	<p>深い額縁明渠を掘る</p>	<p>深い額縁明渠を掘る</p>
C	<p>礫層まで弾丸暗渠を施工(斜めがけ)</p>	<p>礫層まで弾丸暗渠を施工(斜めがけ)</p>
D	<p>本暗渠</p> <p>弾丸暗渠を施工(斜めがけ)</p>	<p>弾丸暗渠を施工(斜めがけ)</p>
E	<p>放射状に弾丸暗渠を施工</p>	<p>放射状に弾丸暗渠を施工</p>